

な屋根の格好は旅行者の好奇心を惹くに充分奇異なものである。

甘蔗葺の屋根

臺灣平野の南部は日本に於ける重要な甘蔗の栽培地であるが、その地方の民屋には甘蔗の葉

を利用して作つた甘蔗葺の屋根がある。これはその土地に容易に得られる材料が建築材料となる一例であつて、臺灣らしい珍らしい屋根の材料である。

(完)

隱岐列島の水産製造業に就いて

安 藤 鏗 一

序 言

筆者は最近極めて短時日ではあるが隱岐列島を訪問する機會を得た。隱岐と云へば直ちにスルメを聯想させられる程隱岐は水産の豊かな國として我々に印象づけられてゐる。筆者はその技術的經濟的な性質から推測して水産製造業が隱岐では相當に盛なものと豫想してゐた。併し乍ら實際調査して見ると豫期に反して水産製造

業は現在それ程發達して居らぬことを知つた。本稿では隱岐列島の水産製造業の現状を述べ、それが隱岐に於ては發達し得る如く見えて發達せぬ理由を不充分乍ら説明して見たいと思ふのである。勿論かうした現象は一部の水産製造業の盛な地方を除けば共通のものであるかも知れないが、その點に就いては筆者の用意が足りないので何とも斷言することは出来ない。

水産製造業を獨立した生産の一部門として取扱ふことには異論がないわけではない。水産製造業が漁業や水産養殖業と區別されるのは單に技術的な意味に於てであつて、社會的生產の立場から觀れば何れも産業的意味に於ける漁業の過程に他ならないとして水産製造業を漁業・水産養殖業と共に廣く水産業の中に抱括せしめる意見もある。⁽¹⁾筆者は水産製造業が緊密に漁業に結びつき、商品としての漁獲物の性質に強く規定されてゐることは認めるのであるが、今回の調査は水産製造業のみに限つたので片手落ちかも知れぬがそれだけを扱ふことにした。

註一、嵯川虎三、水産經濟學 水産學全集第十一卷二五頁

一、現 狀

本土から三十六湊（境港より島前の知夫まで）以上も離れた沖合に位置する隠岐は氣候の比較的溫暖な火山性の列島で、島前・島後に分れ、島前は更に三の主島によつて形成されてゐる。

隠岐列島の水産製造業に就いて

全島の面積三四八方軒餘、人口三四、一三四人（昭和五年度國勢調査）、支廳が置かれて行政的に一單元をなしてゐる。

隠岐列島住民の經濟生活はその生産總價額（第一表）と職業別人口（第二表）から理解出來よう。

第 一 表
生 産 總 價 額
(昭和九年)

	圓	%
農 産 物	1,123,083	41.3
蠶 糸	184,825	6.9
畜 産 物	103,908	3.9
林 産 物	443,183	16.5
水 産 物	563,537	21.0
工 産 物	279,367	10.4
計	2,697,912	100.0

生産總價額では水産物は二一パーセントで二位（一位は養蠶を加へると略々半分となる農業）、職業別人口に於ても水産業に屬する本業者・副業者の数は農業に次いで同じく二位を占める。

第 二 表
職 業 別 人 口
(昭和九年)

地

	本業			副業			計		
	男	女	計	A	B	男	女	計	
農業	9,733(4,309)	10,427(4,601)	20,160(8,911)	58.4	32.5	2,401	1,964	4,365	
水産業	2,546 (991)	1,955(1,363)	4,501(2,341)	13.0	6.2	2,208	1,545	3,753	
工業	852 (363)	722 (397)	1,574 (760)	4.5	2.3	305	106	411	
商業	1,427 (691)	1,615 (997)	3,042(1,688)	8.7	3.2	372	426	798	
交通業	386 (148)	356 (203)	742 (353)	2.1	1.1	146	18	164	
公務自 由業	886 (409)	958 (825)	1,844(1,234)	5.3	1.7	39	16	55	
其他	853 (382)	859 (428)	1,712 (810)	4.9	2.6	267	246	513	
家事使 用人	186 (2)	284 (4)	470 (6)	1.3	1.3	61	36	97	
無職業	225	240	465	1.3					
計	17,094(7,195)	17,416(8,818)	34,510(15,013)			5,799	4,441	10,240	

第二十五卷

備考 括弧ノ中ハ本業者中ニ含マレル從屬者ノ數

Aハ總人口ニ對スル各職業別人口ノ割合

Bハ總人口ニ對スル各職業別本業者ノ割合(從屬者ヲ除ク)

Cハ總人口ニ對スル各職業別副業者ノ割合

第二號

二〇

四四

かく水産業は隠岐列島では住民の經濟生活の重要な要素となつてゐるが、漁獲物に加工する水産製造業は如何なる状態にあるであらうか。

昭和九年度隠岐列島に於ける漁獲高總水揚げは、一、六二一、〇一三貫、内製造物に利用せらるゝ見込額は四〇八、〇一〇貫である。内地に於ては漁獲物の重量の畧四割が鮮魚介として、六割が水産製造の原料として利用されてゐることを併せ考へれば隠岐列島の水産製造業が如何に不振の状態にあるか判るであらう。九年度の列島の水産物の總價額は五六三、五三七圓、水産製造物は隠岐支廳の統計で工産物として一般水産製造物から切り離されてゐるサザエの罐詰及び粗製貝釧の生産額を加へても一九八、〇二〇圓、即ち一〇〇に對して三五の割合しかない。その詳細は

第三表 水産製造物總價額表 (昭和九年)

隠岐列島の水産製造業に就いて

町名村	節			素 乾				鹽 乾				
	サバ 節	イワ シ節	其他	スル メ	ゴマ メ	ソカ メ	其他	イワ シ	アデ	飛魚	サバ	其他
西郷町	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
東郷村	80	—	290	336	—	300	230	—	8	35	30	78
布施村	—	—	600	171	—	1,488	499	—	—	15	—	32
中 村	30	90	70	135	—	1,414	1,549	—	16	475	40	50
中條村	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
磯 村	—	—	—	200	—	2,600	—	—	—	—	—	—
五箇村	96	80	—	200	—	1,000	3,200	50	—	270	—	80
都萬村	—	—	—	2,692	—	4,868	—	—	—	—	—	—
海士村	72	35	—	2,250	—	1,080	—	160	625	—	400	—
黒木村	—	979	—	650	—	3,738	—	88	20	4,500	17	840
浦郷村	—	—	—	2,600	—	5,100	—	—	—	2,200	—	—
知夫村	—	30	—	8	150	9,250	675	—	16	—	—	250
計 (製品別)	278	1,214	960	19,242	150	32,838	6,652	298	685	7,513	489	16,330
計 (分類別)	2,452			52,230				25,315				
町村名	煮 乾			鹽 藏			雜 類		肥 料		罐 詰	
	イワ シ	アハ ビ	其他	サバ	ブリ	其他	カマボコ チクワ	ホシ ノリ	イワシ カス		サザエ	
西郷町	円	円	円	円	円	円	円	円	円		円	
東郷町	1,500	—	—	—	—	—	1,000	—	700		50,000	
布施村	—	—	—	—	—	—	—	2,310	370		8,432	
中 村	—	—	—	—	—	—	—	1,098	120		—	
中條村	—	—	—	—	—	—	15	3,450	—		—	
磯 村	—	—	—	—	—	—	—	—	—		—	
五箇村	480	—	—	—	—	—	—	1,300	—		—	
都萬村	—	—	—	—	—	—	—	2,760	160		—	
海士村	—	—	—	—	—	—	—	750	—		—	
黒木村	390	992	—	30	234	810	—	5,720	—		2,360	
浦郷村	4,050	—	—	—	—	—	560	1,100	—		—	
知夫村	—	1,530	3,700	—	—	—	—	200	2,300		—	
計 (製品別)	6,870	2,522	3,700	30	234	810	1,575	18,688	3,650		60,792	
計 (分類別)	13,202			1,074			20,263		3,650		60,792	

町村名	工藝品	計	
	サザエ貝釧		%
西郷町	8,000 ^円	88,700 ^円	44.8
東郷町	1,500	14,017	7.0
布施村	—	4,023	2.0
中村	—	7,334	3.7
中條村	—	—	—
磯村	—	2,800	1.4
五箇村	—	6,756	3.4
都萬村	2,000	12,480	6.3
海土村	—	5,372	2.7
黒木村	—	21,368	10.7
浦郷村	1,000	17,060	8.6
知夫村	—	18,109	9.1
計(製品別)	12,500	198,020	100
計(分類別)	12,500		

第三表から理解出来る。更に第四表から水産製造業が隠岐列島の經濟生活に於て占めてゐる地位が明かとならう。水産製造業を本業とするものは業主被傭者合して二三八人、總人口の〇・六パーセント、水産業人口(從屬者を除く)の一パーセントを占めるに過ぎない。それに反して副業者の數は極めて多く、二〇八五名に達し、漁業者・農業者が片手間に水産製造を行ふことを示してゐる。即ち隠岐では水産製造業は多く他の職業の副業に營まれてゐるのである。而してその加工が極めて簡單で、殆ど全部が手工業

的に營まれてゐることは本業者の業主一人に對する被傭者の數の少いこと及び副業者の業主の多いことから明かである。副業者の被傭者が多いことは水産製造業が季節的な性質を有してゐることを或る程度物語つてゐる。

要するに隠岐列島の水産製造業は漁業に比して發達せず漁獲物は寧ろ生のまゝで處分されることが多い。筆者は次に何故かく隠岐列島では水産製造業が發達せぬかと云ふことに就いて不充分ではあるが考へて見た。

註一、此處で云ふ水産業とは漁業・水産養殖業及び水産製造業の大部分を含むが罐詰・貝釧の如き製造業を含んでゐない。

二、隠岐支廳統計

三、數字は蜷川虎三前掲書に依る。一三二頁。

四、サザエの罐詰の製造は近年になつて起つたもので、それ迄は煮て身抜きをして地方(本土)に罐詰の原料として送つてゐた。併しかうした手間を經ず直接罐詰とした方が味が良く、滿洲國・支那へ輸出されるため製造場は最近増加の傾向にある。

五、粗製貝釧製造業を水産製造業の中に包括せしめること

第 四 表
町村別水産製造業者数
(昭和九年)

業 主			本 業			副 業			總計
町	村	名	男	女	計	男	女	計	
西	郷	町	9	—	9	4	—	4	13
東	郷	村	5	—	5	214	162	376	381
布	施	村	2	—	2	25	7	32	34
中	村	村	10	—	10	10	—	10	20
磯	條	村	—	—	—	15	—	15	15
五	村	村	—	—	—	—	—	—	—
都	箇	村	—	—	—	80	—	80	80
海	萬	村	—	—	—	28	132	160	160
黒	士	村	22	—	22	118	—	118	140
浦	木	村	1	—	1	15	2	17	18
知	郷	村	17	—	17	23	—	23	40
	夫	村	2	1	3	—	30	30	33
計			68	1	69	532	333	865	934

被 傭 者			本 業			副 業			總計
町	村	名	男	女	計	男	女	計	
西	郷	町	5	8	13	12	330	342	355
東	郷	村	20	9	29	118	97	215	244
布	施	村	—	6	6	19	30	49	55
中	村	村	7	1	8	9	45	54	62
磯	條	村	—	—	—	—	—	—	—
五	村	村	—	—	—	5	75	80	80
都	箇	村	—	—	—	87	81	168	168
海	萬	村	—	—	—	—	—	—	—
黒	士	村	41	25	66	48	78	126	192
浦	木	村	17	15	32	52	56	108	140
知	郷	村	—	13	13	29	46	75	88
	夫	村	1	1	2	3	—	3	5
計			91	78	169	382	838	1220	1389

は或は適當でないかも知れない。併し原料は身抜きした後のサザエの貝殻であり、サザエ罐詰製造業とも關係があるので一括して論ずることにした。此處で生産される粗製貝鉤は總て紀州の田邊に送られて精製品となる。

二、説 明

隠岐列島の水産製造業に就いて

隠岐列島の水産製造業が内地一般に比して發達せぬ理由を明かにする前に水産製造業の技術的・經濟的特質に就いて一應述べる必要があらう。

水産製造業は營利の目的を以てする漁獲物の

備考 コノ統計表は於テハ町村當局ガ統計ノ作成ニ當ツテ水産製造業者ニ含メル範圍ノ點デ必ズシモ一致シテ居ラヌコトニ注意セネバナラヌ。例ヘバ水産製造物ノ價額ニ於テ第三位ヲ占メル知夫村ガ水産製造業者數ニ於テヒドク少イノハ漁業者ト重複スルモノラスベテ後者ニ算入シタ結果デアリ、東郷村ノ業主ノ副業ガヒドク多イノハ農業ノ片手間ニ和布ヲ採取シテ干スモノラスベテ入レタメデアル。又サザエ罐詰業者及貝鉤製造業者ハ工業者トシテ扱ハレコノ統計ニハ含マレテナイ。

處理・加工・製造である。即ち水産物の商品性を維持し、或は之を高めることを目的とするもので漁業とは密接不可離の關係にある。従つて漁業の特質は同時に水産製造業を規定する重要な性質をなしてゐる。その性質としては一、自然による制約が頗る大であること、二、漁獲物は一般に商品として其の耐久性が弱いこと、三、専ら食料品として供給され、工業原料となることが少いことの三項が擧げられる。

水産製造業の製造工程は勿論その製品の種類に依つて異つてゐる。此處では隱岐列島で生産される水産製造物の種類にのみ其の叙述の範圍を留めることにする。(併し肥料・節・鹽藏品は其の價格が僅かであるから除外したい)素乾・鹽乾・雜類・煮乾の各製品はその製造方法からすれば舊來のそれを依然として踏襲してゐるものである。即ち之等の製品は全國的に現在も尙極めて簡單な加工品の程度であるに過ぎない。従つてその經營は小規模であり、技術的には依然と

して手工業の段階にある。

隱岐に於ては製造場は總て海に臨み、可成廣い干場と釜場洗場・貯藏場等から成る極めて粗末な建物によつて構成されてゐる。一例として隱岐で行はれてゐる素乾品の中のスルメの製造工程を挙げると、先づイカを開き、腸を取り、洗滌し、適當な型に仕上げて干し、適度に乾燥すると貯藏して注文先に送るといふ順序になつてゐる。總て漁獲物には漁期があり、その時期には一時に仕事が輻輳するので臨時に労働者(多く婦人)を雇ひ入れる。被傭者の副業者の數が多いのはかうした事情に基く。之等簡單な加工をなす製造場は一種類の製品のみを製造するのではなく、漁期が來て漁獲された鮮魚介を次々に加工して行く。その加工が極めて簡單であるために大規模な設備なしでそれが可能なのである。ワカメの如きは時期が來ると農民や漁業者が採取して自分で干して適當な型にする。

併し近代的な水産製品である罐詰の製造は上述の製品とは事情が異つて居り、全國的には工場生産のものが大部分を占めてゐる。隱岐では未だ工場法の適用を受けてゐる製造場はないが若干のものがサザエの罐詰を製造してゐる。勿論經營の規模は小であり、技術の點では尙手工

業の域を脱してゐない。更にサザエの貝殻を原料とする粗製貝卸製造業があるが、これも同様な状態にあり、製造場は三あるがそれ以外に副業的に漁業者・農民の家庭に於て行はれてゐる。

粗製貝卸はサザエの貝殻から圓形の貝片を打ち抜くだけですべて人力でなされる。副業の場合は原料を豫め手當て置いて雨天の日等に行ふのである。

水産製造業の技術的な特質としては漁獲物に豊凶・時期があり、従つてその生産設備は加工の操作が多く簡單であることと、殆ど専ら食料品として用ひられることと相俟つて一部の部門を除いては一般に規模が小さいと云ふことが言へる。従つて機械の使用が少く、労働の分野が廣いが、併しその労働は漁期によつて支配される。隠岐列島の水産製造場には工場として取扱はれてゐるものは一つも存在せず、その機械設備の如きも極めて簡單である。又漁獲物は耐久性の弱い商品であり、従つてその加工は一刻も速かなければならない。それ故製造場の位置も自

ら決定されて来る。

經濟的な特質としては水産製造物には極めて簡單な加工品が多く、従つてその經營形態は概して手工業若しくは家内工業的であり、近代的な工場制工業は一部の部門にのみ優勢であると云ふことである。これは漁獲物が専ら食料品として供給され、工業原料となることが少いことにもよるであらう。隠岐列島に於ては水産製造業の經營形態は殆ど手工業的であると言つて良い。又漁獲物の豊凶、漁期のために企業に伸縮性があり、漁期には一時に多數の労働者を必要とする。

かゝる技術的・經濟的な特質を有する水産製造業の正常立地は如何なる地點であらうか。

既に述べた如く商品としての漁獲物の生命はその鮮度にある。水産製造業の目的は即ち漁獲物の商品性を維持し、或は高めることに外ならない。従つて水産製造業の正常立地は耐久性の弱い商品である漁獲物を最短の時間に受けとる

ことの出来る地點、即ち沿岸漁業地、漁港の附近或は工船の場合は工船自體に一致する。それは原費の優越と云ふよりは（勿論原費の優越でもあるのであるが）寧ろ生産の優越或は質的な優越の形を取つて地方化要因が現はれてゐることを示してゐる。クロイツブルグはかゝる生産立地を加工される原料の性質によつてその原料空間に拘束されたものとしてゐる。

漁業地としての隱岐は確かに恵まれてゐると言へる。水産製造業はその原料たる漁獲物の耐久性が弱いと云ふ性質に規定されて漁業地へと牽引される。漁業に恵まれ、低廉な副業労働者の多數存在する海島隱岐に於て鮮度が商品としての價值を決定する漁獲物を處理・加工することによりその商品性の維持を圖る水産製造業が發達しないのは如何なる理由によるのであらうか。海島隱岐が本土から三十六哩以上の沖合に位置し乍ら漁業に比して水産製造業の發達の程度が内地一般より劣つてゐるのに就いては何か

原因がなければならぬ。

勿論水産製造業の發達は漁獲物の種類に依つても或程度支配される。即ち隱岐列島の漁業は大正初年迄二番柔魚の釣漁を主として居り、従つてそれからスルメの製造が多く行はれ、スルメは本列島第一の移出品となつてゐた。漁業が二番柔魚を主たる對象としてゐたのであるからそれ故水産製造業も現在よりは絶對的・相對的に盛であつたと考へられる。大正三・四年以後二番柔魚の不漁となると共に、漁業も水産製造業も衰へて、轉職者・出移民すら生ずるに至つた。其の後之迄閑却されてゐた魚類の漁獲及びそれを原料とする水産製造が始まり、殊に近年運搬船の發達に伴つて漁獲高も多くなり、現在はスルメに代つて鮮魚介が移出品の首位を占めてゐる。而して殆ど沿岸漁業である點は現在も變りがない。

消費地たる地方（本土）迄の距離と云ふ制約があるにも係らず尙漁獲物が鮮魚介として多く移

出され、隱岐に於て水産製造物に加工されることとが少いと云ふ事實は一方に於て漁業者が鮮魚介として販賣することの比較的有利であることを示すものであり、他方それを消化するだけに水産製造業が發達し得ないことを物語るものである。實際に於て隱岐列島に於ては鮮魚介の價格は高いと云はれて居り、現在では仲買業者の買上値段は地方と島との間にそれ程差がないと云ふことである。かうした事情は資本の無い島の仲買業者が競争的に漁獲物を買ふ結果惹き起される。生物は今日市場へ持つて行けば明日は直ちに現金となる。運搬船（發動機船）の發達と製氷の設備は一層この傾向を助長したのであらう。かくの如く鮮魚介の値段が高いのであるから可成の資本を投じ、高價な原料を使用して製品にしてみてもすぐ賣れることが保證されない。水産製造業は隱岐列島の如き資本の無い土地に於ては起り難い。且かうした經濟的な中心地に遠い地方の共通性として金利が一般に高い爲に

隱岐列島の水産製造業に就いて

資金を借りて事業を起すことは非常に困難である。殊に投機的な漁業に支配される水産製造業に於てはその困難は一層であらう。勿論此の場合には日本の南部の魚族は一般に價値が高いから鮮魚が沿岸漁業・遠洋漁業を通じて大きな役割を演じてゐることに注意せねばならない。而して交通機關の發達は消費地への距離と云ふ自然的制約を或程度取除き得たのである。

かゝる事情から隱岐列島の水産製造業はその製品の種類からすれば從來の製法を依然として踏襲してゐる素乾・煮乾・鹽乾及び比較的新しく附加され、且技術的には稍進歩してゐる罐詰・工藝品たる粗製貝鉤の各製品によつて主として構成されてゐる。前の三者は加工も極めて簡單であり、舊來の製法に従つてゐる。後の二者が起り得たのはその製造業の立地として隱岐が優れてゐたからに外ならない。

サザエは從來罐詰用として煮て身抜きをして送つてゐた。併し煮ても夏季は腐敗することがあつた。それに反して隱岐で製造すれば手間が省けて且味が良い。それで漁期の長

いサザエ罐詰製造業が近年盛となつた。サザエは夏季のワカメの採集時期には漁業者が採集せぬので製造場は休業するか或は他の製品を製造する。貝鉤は製造に際して原料十貫匁に對して製品一貫匁即ち九割の重量喪失が起る。且、技術的には簡單で只貝殻片を人力で圓く打抜くのみであるから原料地へ指向することは明かである。某製造場では生産費は勞銀と原料費が半々になつてゐる。貝鉤製造場の中には打抜の機械を十五臺も設備してゐるものがあり、勞働者も常時七・八人を使用してゐるから、之等は工場として取扱つても差支なからう。

しからば隠岐列島の水産製造業は工場制工業にまで發達し得るであらうか。本邦の水産製造業に於ては舊來の製造方法を取る製品を生産する製造場には工場組織のものが殆どなく、技術的により進歩した製品の製造場には工場組織のものが見られる。殊に罐詰の如きは大部分工場生産と考へられる。すべて漁獲物には豊凶・時期があり、従つて水産製造業に於ても經營の收益の安定を計る爲には多種類の原料を處理する設備を必要とし、その規模は大とならざるを得ない。隠岐列島に於ては現在工場法の適用を受け

てゐる製造場は一つもない。既に小規模のもので工場として取扱つて差支へないものも若干存在するが、併し之等が大規模の工場にまで發達すると云ふことは先づ考へられない。殆ど沿岸漁業のみに限られてゐる隠岐列島に於ては漁獲物の數量には一定の限度がある。若し假りに豊富な漁獲が充分な原料を供給し得たとしても動力料・補助資料（空罐・調味料・包装材料等）の缺如は強い制約となつて働きかけるであらう。一方運搬船の發達は製氷の設備と共に本土との時間的距離を縮めてその制約を一層強めると考へられる。サザエ罐詰製造業と粗製貝鉤製造業が小規模乍ら獨立出來たのはその原料が一年の大部分に渡つて供給されるからである。併し原料には限度があり、現在以上の發展はあまり望めない。

サザエは夏季を除き常に採取されるし、貝鉤はサザエの貝殻が原料であり、變質の恐れがないから夏季には豫め原料を手當てして置くことが出来る。

二、同 一三四頁

三、Nikolaus Greutzburg, Das Lokalisationsphänomen der Industrien. Stuttgart 1925. S. 66

四、婦人は一日四五十銭の賃銀が普通である。

五、西川榮一 隠岐列島人口の地理學的考察 地理論叢

第七輯 二一一頁

六、隠岐支廳齋藤光藏氏談

七、信用組合ですら月一分年一割二分であり、二割が普通となつてゐる。

八、Hans Julius Schippers, Japans Seefischerei.

Breslau 1935 S. 168

南方の魚族とは暖流の支配する海に住む魚族を指してゐるのである。

九、蛭川虎三 前掲書 一三五頁

結 語

筆者は本稿に於て先づ隠岐列島の水産製造業の現状を述べ、それが内地の平均に比べて遙かに不振の状態にあり、且技術的にも未發達の段階にあることを明かにした。次には隠岐列島が水産製造業の發達に一見恵まれてゐる如く考へられるのに發達せぬ理由を極めて一面的且不充

隠岐列島の水産製造業に就いて

分であるが考へてみた。

要するに隠岐列島の水産製造業は漁業が盛である割合には發達せず、消費地に對する距離と云ふ自然的な制約も運搬船の發達と製氷の設備に或程度打消され、寧ろ資本の無い仲買業者の競争による鮮魚介の値段の高いことと金利等の關係によつてその發達が阻止されてゐるのである。

本稿では水産製造業を獨立の生産部門として取扱つたが、それがあまりにも漁業に強く規定されてゐるので、水産製造業の考察に當つては同時に漁業、殊に非資本家的生産が大きな部分を占める漁業の特質に對する深い認識が必要であることを知つた。その意味に於て本稿は不備であると言はなければならぬ。又豊凶常なき漁業に規定される水産製造業を問題とし乍らその論據を僅か一年の統計に求めたことも當然批難に値するであらう。更に自然的な側面に對する研究を等閑視したことも筆者の不用意の一つ

に數へられる。それ以外にも尙幾多の缺點があらうと思はれるが、筆者が微力の爲一應これだけで纏めて、より完全な研究は後日を期することにしたのである。

終に臨み種々御示教を賜り、且調査の際には貴重な時間を割いて御案内下さつた隠岐支廳の齋藤光藏氏に厚く感謝する次第である。

(十二月十日稿了)

長崎縣の海岸地形と其の利用景觀

森 壽 美 衛

一、緒論

三、海岸の利用景觀

二、海岸地形誌

四、結論

一、緒論

長崎縣は海岸の出入に富んでゐることに於ては全國何れの府縣にも劣らぬ。海岸線の複雑なことが長崎縣地方の一大特色である。内地の海岸線總延長三〇・六〇三浬に比べて長崎縣二・四三六浬は約八%に當り、各府縣平均海岸線の三・六倍に達してゐる。

侵蝕山地の沈降した南西日本は隆起地形の著しい北東日本よりも甚だしく海岸線の變化に富んでゐる。九州島は其の面積北海道の半に足らぬが海岸線の長さは反對に一倍半を過ぎる(北海道五・四八二浬、九州八・六六二浬)。南西日本の複雑な海岸地形は九州北西部から朝鮮半島の南西海岸に及んで極度に達してゐる。それであるから長崎縣は全九州の海岸線の約二八%を占有してゐる。